M-AUDIO®
OXYGEN PRO 61

クイックスタートガイド

M-AUDIO

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。

このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。

このマークは、ご利用出力コネクターが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラクは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2 つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 主電源プラグまたはアダプターをコンセントからいつでも抜ける状態にしておいてください。
17. 本装置をアンプに接続して、ヘッドホンやスピーカ—で長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
18. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
19. 警告：火災や感電防止のため、雨や温気にさらさないでください。

このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

inMusic Japan 株式会社　カスタマーサポート部
東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階
[Web] inmusicbrands.jp
[サポート] www.inmusicbrands.jp/support/

クイックスタートガイド

はじめに

同梱品

Oxygen Pro 61 本体

USB ケーブル

ソフトウェア・ダウンロードカード

クイックスタートガイド/保証書(本書)

サポート

製品の最新情報（システム要件や互換性情報など)は、M-Audio のホームページ **m-audio.jp** にてご確認ください。

また、製品のサポートについては、 **m-audio.jp/support/**をご参照ください。

セットアップ

Oxygen Pro 61 の使用を開始するには、機器を接続し、ソフトウェアを適切に構成してから、キーボードのオペレーションモードを設定する必要があります。

Oxygen Pro 61とコンピュータの接続

付属のUSBケーブルのUSB(B)端子をキーボードへ、USB(A)端子をコンピュータ（もしくはコンピュータに接続されたUSBポート）に接続します。

注：1 本の USB ケーブルで、コンピュータと MIDI データの送受信だけでなく、キーボードへの電源供給も行います。Oxygen Pro 61 以外のデバイスも接続されている USB ポートを使用する場合は、AC アダプタで動作するパワード USB ポートをご使用ください。

お使いのDAWソフトウエアで Oxygen Pro 61を使用するには、ソフトウェアの**Preferences**（初期設定）、**オプション**、**デバイス設定**などで、MIDI コントローラとして設定する必要があります。

Oxygen Pro 61を付属DAWソフトウェアの**MPC Beats**、**Pro Tools | First M-Audio Edition**、**Ableton Live Lite**でご使用になるには、次項の、***付属ソフトウェアのインストール***にて詳細をご確認ください。その他のDAWソフトウェアでのご使用に関しましては、DAWソフトウェアの説明書をご参照ください。

Oxygen Pro 61 を外部のハードシンセと接続して使用する際は、**MIDI Out** ポートと外部のハードシンセを標準 5 ピン MIDI ケーブルで接続します。次に、Oxygen Pro 61 が選択したカスタムプリセットで動作するように設定されている事と（詳しくは、***オペレーションモードの設定***の項目をご参照ください）グローバルセッティングで、5 ピン MIDI 出力ポートから MIDI データを送信するように設定されている事を確認します。外部のハードシンセと接続して使用する際には、コンピュータかラップトップ、もしくはパワード USB ポートとの接続が必要です。

付属ソフトウェアのインストール

付属の **MPC Beats**、**Pro Tools | First M-Audio Edition**、**Ableton Live Lite** のソフトウェアにより、すぐに音楽を作成できます。
さらに、DAW で使用できる拡張パックと AIR バーチャル・インストゥルメント・プラグインのセットも含まれております。

MPC Beats、Pro Tools | First M-Audio Edition、Ableton Live Lite ソフトウェアをダウンロードするには、m-audio.com にてアカウントを作成し、製品登録を行ってください。**Ableton Live Lite** を使用する場合は、ableton.com にてアカウントを作成し、ソフトウェアのダウンロード・認証を行ってください。Oxygen Pro 61 で DAW を設定する方法については、
*ProTools | First M-Audio Edition のセットアップ*か *Ableton Live Lite のセットアップの項目*をご参照ください。

付属の AIR バーチャル・インストゥルメント・プラグインをダウンロードするには、同梱のソフトウェア・ダウンロードカードの指示に従ってください。インストール完了後、バーチャル・インストゥルメント・プラグインは DAW 上で自動的にロードされない場合がありますので、ソフトウェアでプラグインがインストールされたフォルダーを指定する必要があります。

Pro Tools | First M-Audio Edition と **Ableton Live Lite** で選択するプラグインフォルダーはご使用の OS により異なります。以下をご参照ください。

Pro Tools | First M-Audio Edition/AAXプラグインフォルダーの場合：

- **Windows (32-bit):** C:\Program Files (x86)\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins
- **Windows (64-bit):** C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins
- **MacOS:** Macintosh HD/Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins

Ableton/VSTプラグインの場合：

- **Windows (32-bit):** C:\Program Files (x86)\VSTplugins
- **Windows (64-bit):** C:\Program Files\VSTplugins
- **MacOS: Macintosh HD/Library/Audio/Plugins/VST**

Ableton Live Lite でプラグインフォルダーを設定する場合：

1. **Preferences（設定）**メニューを開きます。
2. **File Folder（ファイルフォルダー）**タブを開きます。**Plug-In Sources**（プラグインソース）で **Browse （参照）**をクリックし、上記リストを参照し適切なプラグインフォルダを選択します。
3. プラグインフォルダを選択すると、**Use VST Custom Plug-In Folder** ボタンが **ON** になります。
   ON にならなかった場合はボタンを押して ON にし、**Preferences（設定）**メニューを閉じます。

Ableton Live のセットアップ

1. Oxygen Pro 61 をコンピュータに接続し、Ableton Live Lite を立ち上げます。
2. Ableton Live Lite の **Preferences（設定）ウインドウ**を開きます。Mac をご使用の場合は、
   Live > Preferences の順にメニューを開きます。PC をご使用の場合は、**Options > Preferences** の順にメニューを開きます。
3. 左側の **Link/MIDI** タブを選択します。**MIDI Ports（MIDI ポート）**のセクションで、以下の設定を行います。

Control Surfaces の **Input（入力）**と **Output（出力）** のセクションで Oxygen Pro 61 を選択します。

Input: Oxygen Pro 61 の横にある Track 列と Remote 列で ON を選択します。

Output: Oxygen Pro 61 の横にある Track 列と Remote 列で ON を選択します。

4. Preferences（設定）メニューを閉じます。
5. Oxygen Pro 61 でトリガーするインストゥルメントまたはプラグインを追加するには、Categories 列で Instruments か Plug-ins を選択します。
6. Categories（カテゴリー）列の右側にある Name 列で、ご使用になるインストゥルメントまたはプラグインを選択し、Ableton Live Lite の MIDI トラックにクリック&ドラッグしてロードします。

この設定により、インストゥルメントをトリガーできるようになります。

Pro Tools | First M-Audio Edition のセットアップ

1. Oxygen Pro 61をコンピュータに接続し、Pro Tools | First M-Audio Editionを立ち上げます。
2. プロジェクトを開くか新規作成します。
3. Setup（セットアップ）のプルダウンメニューを選択し、MIDI Input Devicesメニューを開きます。Oxygen Pro 61メニューの横にあるボックスをクリックし、Oxygen Pro 61からのMIDI Input（入力）を有効にします。
4. Track （トラック）のプルダウンメニューを選択し、Newをクリックしてインストゥルメント・トラックを新規作成します。
5. Newのプルダウンメニューで、Stereo > Instrument Trackの順に選択します。
6. 新規作成したトラックで、トラックのInserts A〜Eのどれかをクリックし、Multichannel Plugin > Instrumentsの順に選択して、（Xpand!2 (Stereo)など）使用するインストゥルメントを選択します。

この設定により、インストゥルメントをトリガーできるようになります。

Preset Editor（プリセットエディター）

付属のPreset Editorソフトウェアをダウンロードするには、同梱のソフトウェア・ダウンロードカードの指示に従ってください。このソフトウェアを使用すれば、Oxygen Pro 61にロードするカスタムMIDIマッピングを作成できます。カスタムプリセットの1つを選択してキーボードを操作する方法の詳細については、*オペレーション> カスタム マッピングを使用する**の項目***をご参照ください。また、プリセットエディターには、専用のエディター・ユーザーガイドも付属されています。

オペレーションモードの設定

Oxygen Pro 61 が DAW で動作するように設定したら、キーボードのオペレーション（操作）モードを設定します。オペレーションモードを選択することで、DAW の機能と自動的に連携するようにキーボードを設定したり、コントローラーとしての機能/設定をカスタマイズすることができます。この 2 つのモードにより、プラグインの制御と DAW の制御がボタン操作だけですばやく切り替え可能になります。

編集可能な MIDI キーボードのコントロール機能は、次の内 2 つから選択可能です。

- DAW：DAW モードでは、キーボードのコントロールは DAW のスライダー、ボタン、ノブ、パッドに自動的にマッピングされます
- Preset：プリセットモードでは、キーボードの編集可能なコントロールを、自分で設定できます。多数のプリセットマッピングを個別に作成し、後でロードできるようにキーボードの内部メモリにセーブできます。

DAW モードでキーボード操作を設定するには、DAW ボタンを押します。DAW モードが選択されるとボタンが点灯します。

DAW モードでキーボード操作を設定するには：

1. **DAW ボタンを**長押しし、**ディスプレイ**で DAW 選択メニューを開きます。
2. **Scroll/Select エンコーダーノブ**を回し、ディスプレイ上で利用可能な DAW を選択します。

   エンコーダーノブを回すと、現在選択されている DAW が**ディスプレイ**上で更新できます。

   User オプションを使用すれば、カスタム DAW コントロールをキーボードにマッピングすることができます。詳しくは、***オペレーション> カスタム マッピングを使用する*の*項目***をご参照ください。
3. 設定する DAW がディスプレイに表示されたら、**Scroll/Select エンコーダーノブ**を押して設定内容を決定します。

   注意：設定を何も変更せずに DAW モードを終了する場合は、**Back ボタン**を押します。

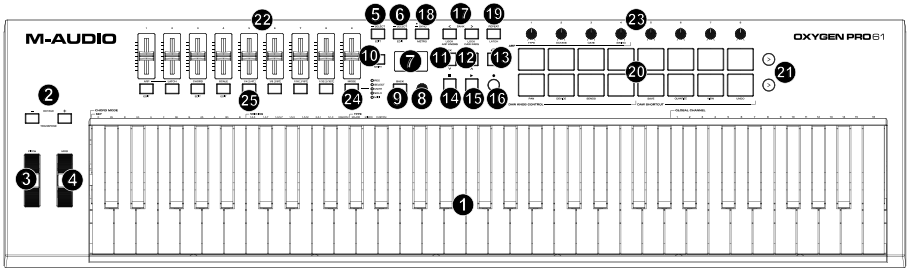
Preset（プリセット）モードで**キーボードを操作する設定をする**には、**Preset ボタン**を押します。**Preset** モードが選択されるとボタンが点灯します。

設定されているプリセットを変更するには：

1. **Preset ボタンを**長押しし、**ディスプレイ**で Preset 選択メニューを開きます。
2. **Scroll/Select エンコーダーノブ**を回し、ディスプレイ上で利用可能な Preset を選択します。エンコーダーノブを回すと、現在選択されている Preset が**ディスプレイ**上で更新できます。
3. 設定する Preset が**ディスプレイ**に表示されたら、**Scroll/Select エンコーダーノブ**を押して設定内容を決定します。詳しくは、***オペレーション> カスタム マッピングを使用する*の*項目***をご参照ください。

機能

トップパネル



注意：ボタンに表記されている括弧のついた機能名はキーボードコントロールのサブ機能です。サブ機能は、コントロール中に **SHIFT ボタン**を押しながらボタンを押して使用します。

1. **キーボード：**ベロシティ対応のキーボードで、MIDIノート情報を送出します。キーボードにはチャンネルアフタータッチ機能も搭載されているので、最初にキーを押した後、キーに加える圧力を変えることにより、バーチャル・インストゥルメント・プラグインが生成するサウンドに影響を与えることができます。**Shift**を押しながら**C2〜C6キー**のどれかを押すと、コードモード設定が編集できます。

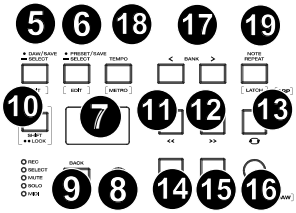
   詳しくは、***オペレーション > キーボード内蔵機能を使う*の*項目***をご参照ください。

2. **OCTAVEボタン（ - / + ）：**これらのボタンを使って、キーボードのレンジを上下にシフトします。デフォルトのオクターブから上に4オクターブ、下に3オクターブまで移動が可能です。

   SHIFTボタンを押しながらOCTAVEボタンを押すと、レンジを半音づつ上下どちらかに移動でき、上下合計12半音まで移動が可能です。

   キーボードのレンジをデフォルトの位置（**キーボード上のC2～C7**）に戻すには、**Octave（ - ）ボタン**と**Octave(+)ボタン**を同時に押します。

3. **ピッチベンド・ホイール：**このホイールを操作すれば、演奏中にピッチを上下させることができます。ピッチベンドのレンジはご使用のソフトウェアシンセにより異なります。ピッチベンド・ホイールはスプリング式で、指を離すと通常の位置・音程に戻ります。
4. **モジュレーション・ホイール：**このホイールを動かして、連続コントローラーデータ（デフォルトではMIDI CC＃01（モジュレーション））を送信します。



5. **DAWボタン：**Oxygen Pro 61をDAWモードで操作するにはこのボタンを押します。長押しすると、DAW選択メニューが**ディスプレイ**に表示されます。**SHIFTボタン**を押しながらDAWボタンを押すと、ユーザーDAWプリセットの新規作成および編集が可能です。編集が完了し、再度DAWボタンを押すと、ユーザーDAWプリセットへの変更点がセーブされます。

   DAWについての詳細は、*セットアップ > オペレーションモードの設定の項目*をご参照ください。

   ユーザープリセットについての詳細は、*オペレーション > カスタムマッピングを使用するの項目*をご参照ください。
6. **PRESETボタン：**Oxygen Pro 61をPresetモードで操作するにはこのボタンを押します。長押しすると、Preset選択メニューが**ディスプレイ**に表示されます。

   SHIFTボタンを押しながらPresetボタンを押すと、プリセットの編集が可能です。編集が完了し、再度Presetボタンを押すと、プリセットへの変更点がセーブされます。

   プリセットモードについての詳細は、*セットアップ > オペレーションモードの設定の項目*をご参照ください。

   プリセットのマッピングについての詳細は、*オペレーション > カスタムマッピングを使用するの項目*をご参照ください。
7. **ディスプレイ：ディスプレイ画面**には最新の操作内容が表示されます。この画面を使用して、キーボードのコントロールを調整する際のパラメータレベルを確認できます。また、**Scroll/Selectエンコーダーノブ**でのキーボードの設定も、ディスプレイで内容を確認しながら行えます。詳しくは、*オペレーション > ディスプレイについての項目*をご参照ください。
8. **Select/Scroll Encoderエンコーダーノブ：ディスプレイ**で編集メニューを使用する際、このノブを回して設定/パラメーターを調整します。ノブを押すと、設定内容を決定します。

   編集メニューを何も表示していない際は、エンコーダーノブを回す/押す操作にはそれぞれ別のMIDIコントロール機能が割り当てられている状態になっています。DAWで操作する場合、割り当てられるコントロールは事前に決定されます。プリセットまたは**ユーザー**DAWを選択して操作する場合、エンコーダーノブを回す/押す操作の割り当ては編集できます。
9. **Backボタン：ディスプレイ**で編集メニューを使用する際、このボタンを押すとメイン**ディスプレイ**画面に戻ります。

編集メニューを何も表示していない際は、Backボタン操作にはコントロール機能が割り当てられている状態になっています。DAWで操作する場合、割り当てられるコントロールは事前に決定されます。プリセットまたは**ユーザー**DAWを選択して操作する場合、Backボタン操作への割り当ては編集できます。プリセット/DAWの名前を編集中に**SHIFTボタン**を押しながらこのボタンを押すと、入力した文字を1文字消すdeleteキーとして機能します。

10. **SHIFTボタン：SHIFTボタン**を長押ししながらコントロール機能やキーボードのボタンを押すと、各機能のサブ機能にアクセスできます。
11. **（ << ） ボタン：**DAW上で選択している画面により、開いているソングの「巻き戻しボタン」として機能するか、開いているウィンドウで「下に移動するボタン」として機能します。
12. **（ >> ）ボタン：**DAW上で選択している画面により、開いているソングの「早送りボタン」として機能するか、開いているウィンドウで「上に移動するボタン」として機能します。
13. **LOOPボタン：**このボタンを押し、DAW上でのループ機能をON/OFFに設定します。
14. **STOPボタン：**このボタンを押すと、DAWで開いているソングが停止します。ダブルクリックすると開いている曲が停止し、再生ヘッドがソングの最初に戻ります。

    SHIFTキーとこのボタンを押すと、MIDIリセットメッセージが送信され、すべてのノートメッセージがオフになり、すべてのコントロールがゼロに戻ります。
15. **PLAYボタン：**このボタンを押すと、DAWでソングが再生します。
16. **RECORDボタン：**このボタンを押すと、DAWでレコーディングが可能になります。
17. **BANKボタン：**DAWモードまたはカスタムプリセットの1つを操作している場合、これらのボタンを使用すると、**スライダー**、**ノブ**、**パッド**、**機能**ボタンのバンクを切り替えることができます。

    各コントロールには4つのバンクがあるので、合計36個のスライダー、32個のノブ、64つのパッドが操作可能となっています。

    SHIFTキーと**BANK <ボタン**を押すと、**SHIFT**キーを押しながら使用する**ARP（アルペジエーター）**ノブコントロール機能が固定されます。この機能は、ライブパフォーマンス中にアルペジエーターのパラメータを操作する際などに役立ちます。**SHIFT**キーと**BANK >ボタン**を押すと、**SHIFT**キーを押しながら使用する**パッド**コントロール機能が固定されます。この機能は、曲のミックス中に編集をする際などに役立ちます。ARPノブやパッドを元の機能に戻すには、再度**SHIFT**キーと、**BANK <ボタン/BANK >ボタン**のいずれかを押します。

18. **TEMPOボタン：**このボタンを押すとOxygen Pro 61のテンポを設定できます。長押しして**ディスプレイ**のテンポ編集メニューを開き、**Select/Scrollエンコーダーノブ**を使用して手動でテンポを入力し、Oxygen Pro 61のテンポをDAWと同期することもできます。

    テンポの設定はアルペジエーター/ノートリピート機能にも影響します。詳しくは、*オペレーション > キーボード内蔵機能を使う**の項目***をご参照ください。

    また、**SHIFTボタン**を長押ししながらTEMPOボタンを押すと、DAWのメトロノームのON/OFFを切り替えることができます。
19. **NOTE REPEAT（ノートリピート）ボタン：**このボタンを押すと**パッド**のノートリピート機能が有効になります。ノートリピート機能をロックするには、SHIFTボタンを長押ししながらノートリピートボタンを押します。**ノートリピート機能**がONになっている状態で**Select/Scrollエンコーダーノブ**を使用すれば、**アルペジエーター**や**ノートリピート**での**Time Division**設定を調節することができます。詳しくは、*オペレーション > キーボード内蔵機能を使う**の項目***をご参照ください。
20. **パッド（1〜16）：**プリセットまたは**ユーザー**DAWを使用している際、パッドを使用すれば、MIDIノートON/OFFメッセージの送信や、その他、アサインされたMIDIコントロールを実行したりできます。

    SHIFTを長押ししながらパッド**9〜11**を押せば**ノブ**の機能の再割り当てができ、**SHIFT**を長押ししながらパッド**13〜16**を押せばDAWショートカットを使用できます。詳しくは、

    *オペレーション > DAWモードのサブ機能を使う**の項目***をご参照ください。

21. **PAD ROW PLAY：**このボタンを押すと、対応するパッド列の各パッドに割り当てられているオーディオクリップが再生されます。これらのボタンの機能は、ご使用のDAWにより異なります。
22. **スライダー（1～9）：**スライダーを上下動かすと、割り当てたコントロールを操作できます。DAWで操作する場合、割り当てられるコントロールは事前に決定されます。プリセットまたは**ユーザー**DAWを選択して操作する場合、割り当てるコントロールを編集できます。
23. **ノブ　（1～8）：**ノブを左右に回すと、割り当てたコントロールを操作できます。DAWで操作する場合、割り当てられるコントロールは事前に決定されます。プリセットまたは**ユーザー**DAWを選択して操作する場合、割り当てるコントロールを編集できます。

    DAWモードで、事前に割り当ての決定しているノブ・コントロールを変更する方法についての詳細は、***オペレーション > DAWモードのサブ機能を使う*の*項目***をご参照ください。

    また、**SHIFTボタン**を長押ししながら**ノブ１～４**を押すと、アルペジエーターの設定を編集することができます。詳しくは、***オペレーション > キーボード内蔵機能を使う*の*項目***をご参照ください。

重要：スライダーと***ノブ***はソフトテイクオーバーの対象です。ソフトテイクオーバーとは、バンクを切り替えた際、急激に値が変化しないようにする制御機能です。バンクを切り替えた場合、スライダーまたはノブは、新しく選択したソフトウェアコントロールの現在の値に配置されるまで機能しません。

たとえば、バンク 1 でスライダー1 の値を上げた状態でバンク 2 に切り替えると、物理スライダーを使用し、ソフトウェアスライダー10 の値をバンク 1 で上げた値に上げるまで、物理スライダー1 での操作はソフトウェアスライダー10 の値に影響を与えません。この機能により、 1 つのバンク、次に新しいバンクのコントロールに不要な変更を加えることなくバンクを切り替えることができます。

割り当てられたコントロールを「引き継ぐ」前に**スライダー**または***ノブ***を操作する必要がある場合、ディスプレイには灰色のバリューメーターが表示されます（詳しくは、***ディスプレイの概要***の図をご参照ください）。

重要：Pro Tools のステレオトラックでは、ノブで L/R のパン（音の定位）コントロールができます。**Shift** ボタンを押すと、ノブへのパンコントロールの割り当てを左チャンネルまたは右チャンネルに切り替えることができます。モノラルトラックでパンコントロールが動作しない場合は、**Shift** ボタンを押し、ノブを通常のパンコントロールの設定に戻してください。

24. **MODE ボタン（LED）：MODE ボタン**押すと、**FUNCTION ボタン**のサブ機能の一つを有効にできます。DAW モードでキーボードが operate に設定されている場合、使用可能なサブ機能のモードは **Rec、Select、Mute、Solo** の４つです。これらのモードでは、MODE ボタンは所定の DAW チャンネル上での録音トラックの選択/トラックの選択/ミュート/ソロボタンとして機能します。（詳しくは、***オペレーション > DAW モードのサブ機能を使う*の*項目***をご参照ください。）Preset モードでキーボードが operate に設定されている場合、使用可能なサブ機能の **FUNCTION ボタン**は **MIDI** です。この状態で FUNCTION ボタンを使用すると、カスタムプリセットで事前に設定されている MIDI コントロールを実行します。

    MODEボタンの右側にあるLEDは、**FUNCTIONボタン**の現在のモードを示します

    SHIFTボタンを長押ししながら**MODEボタン**を押すと、キーボードのグローバルメニューにアクセスできます。

25. **FUNCTIONボタン（1～8）：FUNCTIONボタン**がPRIMARY（メイン機能モード）に設定されている場合は、キーボードの内部機能を制御するボタンとして機能します。下記をご参照ください。

    ARP（アルペジエーター）ボタン：このボタンを押すと、アルペジエーターが有効になります。**SHIFTボタン**を長押ししながらこのボタンを押すと、アルペジエーターの設定を編集できます。

    LATCHボタン：このボタンを押すと、アルペジエーターのMOMENTARY（トリガー）モードとLATCH（固定）モードを切り替えることができます。

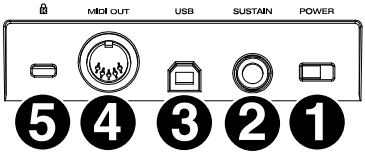
    CHORDボタン：このボタンを押すと、コードモードが有効になります。**SHIFTボタン**を長押ししながらこのボタンを押すと、コードモードの設定を編集できます。

    SCALEボタン：このボタンを押すと、スケールモードが有効になります。**SHIFTボタン**を長押ししながらこのボタンを押すと、スケールモードの設定を編集できます。

1/4〜1/32T（TIME DIVISIONボタン）：これらのボタンを使用し、ノートリピートおよびアルペジエーター機能のキーボードのタイムディビジョン設定を選択します。ボタンを1つ押すたびに、ボタンの上に表示されている標準タイミングとボタンの下にリストされている3連音符のタイミングが交互に表示されます。赤いLEDは標準のタイミングが選択されていることを示し、LEDの点滅は3連音符のタイミングが選択されていることを示します。

上記で説明した機能についての詳細は、*オペレーション > キーボード内蔵機能を使うの項目*をご参照ください。

リアパネル



1. **POWERスイッチ：** Oxygen Pro 61の電源をON/OFFします。
2. **サステインペダル接続端子：**サステインペダル（別売）の接続する入力端子です。デフォルト設定の状態でキーを演奏しペダルを踏むと、キーから指を離している間もサステイン効果を得られます。サステインペダルの入力をリマッピングしてカスタムアサインすることも可能です。

注意：サステインペダルを踏みながら Oxygen Pro 61 の電源を入れないでください。サステインペダルは Oxygen Pro 61 起動時に OFF の状態だと自動的に認識されるため、踏みながら電源を入れると、挙動が正反対（踏んでいない状態でサステイン効果がかかり、踏むと OFF になる）になってしまいます。

3. **USBポート：**コンピュータに接続し、キーボードへの電源供給とMIDIデータの送受信を行います。
4. **MIDI出力：**標準の5ピンDIN MIDIケーブルを使用して、このポートをハードウェアシンセまたは他のMIDIデバイスに接続します。

注意：MIDI 出力ポートは、Oxygen Pro 61 とコンピューターを接続し、MIDI データを送受信します。詳しくはグローバルメニューをご参照ください。

5. **ケンジントンロック・スロット：**盗難防止用の標準的なラップトップスタイルのケンジントンセキュリティケーブルを接続できます。

オペレーション（操作）

ディスプレイの概要

メインディスプレイ画面

演奏中にキーボードの**スライダー**、**ノブ**、**パッド**、**FUNCTION ボタン**を使用すると、最後に使用されたコントロールの現在のバンク、コントロールの名前/番号、コントロールによって適用された現在の値（00〜127 以内に該当する場合）、およびレベルを示すグラフィカルメーター（該当する場合）がディスプレイに表示されます。
演奏中、ディスプレイは図のように黒を主体としたモノクロ表示となります。

注意：ディスプレイにはソフトウェアコントロールの値が表示されますが、キーボードのハードウェアコントロールの値と常に一致するとは限りません。たとえば、キーボードがバンク 3 に設定されている場合、キーボードのノブ 1 を回すと、ディスプレイには**ノブ 20** が表示されます。これは、キーボードがバンク 3 に設定されている場合、**ハードウェアノブ 1** が**ソフトウェアノブ 20** をコントロールしているということです。

機能 > トップパネルの項目にも記述の通り、**スライダー**と**ノブ**にはソフトテイクオーバーが適応されます。バンクを切り替え、割り当てられたコントロールを引き継ぐ前に**スライダー**または**ノブ**を操作する必要がある場合、**ディスプレイ**のコントロールレベルの下には灰色のメーターが表示されます。右の図はバンク 1 がバンク 2 に切り替わったところです。
この状態でソフトウェアスライダー10 の操作を始めるには、まず**スライダー 1** の元の値まで物理スライダーを押し上げる必要があります。

編集メニュー

ディスプレイは、キーボードの様々な設定をするメインツールです。**Scroll/Select エンコーダーノブ**を使用し、MIDI 割り当て、キーボードの内部機能の設定（アルペジエーターなど）、グローバルハードウェアセッティングなどを設定できます。
キーボード機能の編集メニューを開くと、**ディスプレイ**には編集メニューの名前、編集用にハイライトされた設定フィールド、設定の現在のステータスを示すパラメーターフィールド、編集メニューで使用できる設定の残数を示すブロック（画面下部）が表示されます。
編集メニューを開くと、**ディスプレイ**は図のように白を主体としたモノクロ表示になります。

編集メニュー内でスクロールするには、編集する設定フィールドがハイライトされている間に **Scroll/Select エンコーダーノブ**を回します。

編集設定を選択するには、設定フィールドがハイライトされている間に **Scroll/Select エンコーダーノブ**を押します。パラメータフィールドがハイライトされます。

パラメーター設定を編集するには、上記の手順でパラメータフィールドがハイライトさせ、**Scroll/Select エンコーダーノブ**を回してパラメーターの値を調整します。設定が終わったら **Scroll/Select エンコーダーノブ**を押し、設定内容を決定します。**ディスプレイ**は、設定フィールドがハイライトされている状態に戻ります。

編集事項をセーブせずに編集メニューを閉じるには、**BACK ボタン**を押します。

編集事項を**セーブして**編集メニューを閉じるには、ユーザーDAW 編集時は **DAW ボタン**、Preset 編集時は **PRESET ボタン**を押します。

注意：編集メニューで編集できる設定内容は、選択したパラメーターによって異なります。たとえば、アルペジエーターの編集メニューの設定内容は、アルペジエーターの **Type** 設定で選択したパラメーターによって異なります。

DAW モードのサブ機能を使う

DAW モードは、DAW で Oxygen Pro 61 を使用するために複雑なマッピングが必要ないように設計されています。一部のキーボードのコントロールに於いては、複数の機能を DAW モードで切り替えることができます。

FUNCTION ボタンで使用できるモード

DAW モードでキーボードが動作する設定で、DAW が選択されている場合、**FUNCTION ボタン**は 5 つの異なるモード間で切り替えることができます。

FUNCTION ボタンのモードを切り替えるには、ボタン右側にある **MODE ボタン**を押します。押すたびに、**MODE ボタンの LED** が現在選択されているモードで点灯します。使用できるモードは下記の通りです。

PRIMARY（メイン機能モード/LED 点灯なし）： LED が 1 つも点灯していない場合、**FUNCTION ボタン**は各ボタンの上下に印刷されているメイン機能モードに設定されています。これらの割り当てでは、キーボードの内部機能（アルペジエーター、ノートリピート、コードモード、スケールモード）に関連しています。これらの機能で FUNCTION ボタンを使用する方法の詳細については、***オペレーション > キーボード内蔵機能を使う*の*項目***をご参照ください。キーボードの内部機能の使用を参照してください。

REC（レコーディングモード/LED 点灯・赤）： REC モードに設定すると、各ボタンは DAW の対応するトラック 1～32（押したボタンと選択したバンクにより異なります）での録音の ON/OFF を切り替えます。

SELECT（セレクトモード/LED 点灯・緑）： このモードでは、各ボタンは対応するソフトウェアトラック 1～32（押したボタンと選択したバンクにより異なります）を選択します。

MUTE（ミュートモード/LED 点灯・青）： このモードでは、各ボタンは対応するソフトウェアトラック 1～32（押したボタンと選択したバンクにより異なります）をミュートモードの ON/OFF を切り替えます。

SOLO（ソロモード/LED 点灯・黄）：このモードでは、各ボタンは対応するソフトウェアトラック 1～32（押したボタンと選択したバンクにより異なります）をソロモードの ON/OFF を切り替えます。

注意：MIDI モードは、カスタム MIDI マッピング用です。このモードは、キーボードがプリセットモードで動作する設定の場合にのみ使用できます。

DAW モードでノブの機能を変更する

注意：すべてのパラメーターがすべての DAW で使用できるわけではありません。

DAW モードでのキーボード使用中は、 下記の３つの機能の１つをノブで操作できます。

ノブで操作する機能を選択するには、**SHIFT ボタン**を長押ししながら**パッド 9、10、11** のどれかを押してください。

PAN（パッド 9）：ソフトウェアトラック **1〜32**（操作するノブと選択したバンクにより異なります）のパン（音の定位）をノブで操作できます。

DEVICE（パッド 10）：ソフトウェアトラック **1〜32**（操作するノブと選択したバンクにより異なります）のデバイスコントロールをノブで操作できます。

SENDS （パッド 11）：ソフトウェアトラック **1〜32**（操作するノブと選択したバンクにより異なります）の AUX センドをノブで操作できます。

パッドで DAW ショートカットを使用する

DAW モードでは、 パッドを押すと Note On メッセージが送信され、ソフトウェアでシンセやサンプルをトリガーできます。**SHIFT ボタン**を長押ししながら**パッド、13、14、15、16** のどれかを押すと下記のショートカットを使用できます。

SAVE （パッド 13）：DAW で開いているファイルへの変更をセーブします。

QUANTIZE（パッド 14）：DAW で選択されているオーディオリージョンをクオンタイズします。

UNDO（パッド 15）：DAW 上でのファイルの最後の変更点を元に戻します。

VIEW （パッド 16）：DAW のさまざまなウィンドウ（ミックス画面/編集画面など）を切り替えます。

重要：ショートカットを DAW で機能させるには、Oxygen Pro 61 のグローバル設定メニューで PC を **Win**（Windows）または **Mac** に設定する必要があります。
ディスプレイのグローバルメニューにアクセスするには、**SHIFT ボタン**を押しながら **MODE ボタン**を押します。**Select/Scroll エンコーダーノブ**を回し PC の種類に応じて設定を調整し、**BACK ボタン**を押してメニューを終了します。

カスタムマッピングを使用する

Oxygen Pro 61にはカスタマイズ可能な多くのコントロールがあり、キーボードマッピングを作成/セーブする機能を使用すれば、さまざまなDAW、プラグイン、パフォーマンスシナリオに応じて即座に設定を変更して、セーブすることができます。

Presetモードでキーボードを操作する場合、使用可能なプリセットは**1〜16**の16個です。プリセットとは、キーボードの内部メモリにセーブ・ロードができる、Oxygen Pro 61のコントロールのMIDI割り当てグループのことで、プリセット編集モードになっている状態で使用します。キーボードで設定可能な16のプリセットに加え、付属のエディターソフトウェアを使用すればより多くのプリセットをコンピューターにセーブしたりすることも、キーボードの内部メモリにセーブされている16のプリセットを調整したりすることもできます。

DAWモードでキーボードを操作する場合、**ユーザー**設定によりキーボードのカスタムマッピングを作成することができます（MIDIメッセージ、Mackie、Mackie/HUIメッセージを含む）マッピング作成により、キーボードコントロールをDAW内のインストゥルメント/プラグインパラメーターのMIDI割り当てにマッピングするだけでなく、DAW自体のコマンド操作（セーブ/ミュートなど）もマッピング可能です。

ユーザーDAW設定はDAW編集モードで編集できます。キーボードにユーザーDAWを配置するだけでなく、付属のエディターソフトウェアを使用して数に制限のないユーザーDAWをコンピューターにセーブし、キーボードの内部メモリにセーブされているユーザーDAWを変更できます。

プリセット編集モードを開くには、編集するプリセットを開き（*セットアップ > オペレーションモードの設定の項目*をご参照ください）、**SHIFTボタン**を長押ししながら**PRESETボタン**を押します。

DAW編集モードを開くには、SHIFTボタンを長押ししながら**DAWボタン**を押します。

変更点をセーブして編集モードを閉じるには、Preset 編集時は **PRESET ボタン**、**ユーザー**DAW 設定編集時は **DAW ボタン**を押します。

変更を加えた場合、変更をセーブするかどうかの確認メッセージが**ディスプレイ**に表示されます。**Select/Scrollエンコーダーノブ**を回し、**Cancel（中止）**、**Replace（上書き）Save As（名前を付けてセーブ）**のいずれかを選択します。**Cancel（中止）**を選択すると編集モードに戻り、**Replace（上書き）**を選択すると名前を変更せずにプリセットをセーブします。**Save As（名前を付けてセーブ）**を選択すると、名前を変更してセーブし、**Select/Scrollエンコーダーノブ**でプリセット位置番号を変更することもできます。名前の編集中に文字を削除する場合は、**SHIFTボタン**と**BACKボタン**を長押しします。

Preset Editor の使用方法については、ソフトウェアに付属の Editor User Guide をご参照ください。

キーボード内蔵機能を使う

下記のキーボード機能は、キーボードが DAW モードまたはプリセットモードに設定されている場合に使用できます。

注意：次のセクションで説明するアルペジエーター、コードモード、またはスケールモードの機能を制御するには、スライダーの **FUNCTION ボタン**を **PRIMARY（メイン機能モード）**に設定してください。**MODE ボタン**右の LED が点灯していない際は、**FUNCTION ボタンが PRIMARY（メイン機能モード）**に設定されています。**FUNCTION ボタン**が PRIMARY（メイン機能モード）に設定されていない場合は、右の LED が点灯しなくなるまで **MODE ボタン**を（何度か）押してください。

次の項目での LED 関連の操作は、**FUNCTION** ボタンが **PRIMARY（メイン機能モード）**に設定されている前提で説明致します。

ノートリピート機能

ノートリピート機能を有効にした状態で**パッド**を押すと、Note On メッセージをテンポとタイムディビジョンの設定に合わせたリズムで繰り返します。リピートされる各ノートは、タイムディビジョンで設定された長さになります。テンポとタイムディビジョンの詳細は、***キーボードのテンポとタイムディビジョン***の項目をご参照ください。

ノートリピート機能は MOMENTARY（トリガー）モードと LATCH（固定）モードのどちらかに設定することができます。

ノートリピート機能を MOMENTARY（トリガー）モードで使用するには、NOTE REPEAT ボタンを長押しし続けた状態でパッドを押します。ノートリピート機能は、**NOTE REPEAT ボタン**から指を離すまで継続します。

ノートリピート機能を LATCH（固定）モードで使用するには、SHIFT ボタンを長押しながら **NOTE REPEAT ボタン**を押します。**SHIFT ボタン/NOTE REPEAT ボタン**から指を離し、パッドを押すと割り当てられたノートがリピートします。

LATCH（固定）モードでのノートリピート機能を終了するには、再度 **NOTE REPEAT ボタン**を押します。

LATCH（固定）モードでのノートリピート中に MOMENTARY（トリガー）モードに切り替えるには、再度 **SHIFT ボタン**を長押しながら **NOTE REPEAT ボタン**を押します。

注意：ノートリピート機能が ON になっている状態で **Select/Scroll エンコーダーノブ**を使用すれば、**アルペジエーター**や**ノートリピート**での **Time Division** 設定を調節することができます。

アルペジエーター

アルペジエーター機能を有効した状態でキーボードを押すと、押したキーのアルペジオ（分散和音）が再生されます。アルペジオのタイミングとリズムは、キーボードのタイムディビジョンの設定と、（キーボードか DAW のどちらの）テンポ設定に基づいて再生されます。アルペジオ再生される各ノートは、タイムディビジョンで選択された長さになります。例えば「1/4」を選択すると、 アルペジオ再生されるノートの長さは四分音符になります。

設定の詳細は、*キーボードのテンポとタイムディビジョン*の項目をご参照ください。

アルペジエーターは MOMENTARY（トリガー）モードと LATCH（固定）モードのどちらかで使用することができます。

- **MOMENTARY（トリガー）モード：**キーボードのキーを押さえ続けている間のみアルペジオが再生され、指を離すまで継続します。
- **LATCH（固定）モード：**キーボードのキーを触るとアルペジオが再生され、指を離しても継続します。

アルペジエーター機能の ON/OFF を切り替えるには、**ARP ボタン**を押します。アルペジエーターが有効になると LED が点灯します。

アルペジオ再生をするには、アルペジエーターが有効になった状態でお好きなキーを押してください。

LATCH（固定）モードでアルペジオ再生中に、別のアルペジオメロディを LATCH モード再生するには、新たなキーの組み合わせを押さえます。

LATCH（固定）モードで再生中のアルペジオの和音に、新たなノートを追加するには、既に再生中のアルペジオ開始時に押したノートと、新たに追加するノートを同時に押さえます。

アルペジエーターの設定を編集するには、**SHIFT ボタン**を長押ししながら **ARP ボタン**を押すと**ディスプレイ**で編集画面が開きます。**Scroll/Select エンコーダーノブ**を回すと設定を調整できます。詳しくは、*Display ディスプレイの概要*をご参照ください。アルペジエーターの設定メニューは、**BACK ボタン**を押すと終了します。

または、Shift キーを押したままにするか、Shift キーをダブルタップしてシフトロックモードに切り替え、ノブ **1～4** を回して一部の設定ではなく一部の設定を編集できます。ディスプレイを変更すると、新しい設定が表示されます。
また、**SHIFT ボタン**を長押しするか、**SHIFT ボタン**を押しながら **BANK ＜ボタン**を押して ARP（アルペジエーター）ノブコントロール機能を固定し、**ノブ 1～4** を回して設定を編集する機能も用意されていますが、この方法では編集することができるのは一部の設定のみとなっております。新たに変更した設定は**ディスプレイ**に表示されます。

注意：ノートリピート機能が ON になっている状態で **Select/Scroll エンコーダーノブ**を使用すれば、**アルペジエーター**や**ノートリピート**での **Time Division** 設定を調節することができます。

キーボードのテンポとタイムディビジョン

Oxygen Pro 61 のテンポ/タイムディビジョンの設定は、ノートリピート/アルペジエーター機能使用時のタイミング/リズムに影響します。ディスプレイのテンポ編集画面で **Clock** が **Internal** に設定されている場合、キーボードのテンポは **TEMPO ボタン**のタップ機能を使用するか、テンポ編集画面から正確な数字で設定することができます。**Clock** が **External** に設定されている場合、キーボードのテンポは DAW で設定されたテンポに同期します。

タップ機能を使用してテンポを設定するには、ご希望のテンポ（BPM）に合わせて **TEMPO ボタン**を叩きます。ボタンを叩くにつれ、**ディスプレイ**に新たなテンポが表示されます。

注意：キーボードでタップ機能を使用するには、Tempo Edit メニューでキーボードの **Clock** 設定が **Internal** になっている必要があります。**External** に設定されていると、キーボードのテンポは DAW と同期します。

テンポ編集画面からテンポを設定するには、**TEMPO ボタン**を長押ししながら **Scroll/Select エンコーダーノブ**を回し、キーボードのテンポを **20.0～240.0** の間の数字に設定します。上記注意書きを参照し、必要に応じて **Clock** 設定を変更してください。

編集が終了したら、**BACK ボタン**を押してテンポ編集メニューを終了します。***ディスプレイでの* Scroll/Select エンコーダーノブ**の使用についての詳細は、*ディスプレイの概要*をご参照ください。

タイムディビジョンを設定するには、**TIME DIVISION ボタン**を押してご希望の設定を選択します（ボタンの上下に設定名が書いてあります）。3 連音符のタイムビジョンを使用する場合は **TIME DIVISION ボタン**をダブルクリックしてください。標準のタイムビジョン選択時には対応するボタンが点灯し、3 連音符のタイムビジョン選択時には対応するボタンが**点滅**します。

注意：ノートリピート機能が ON になっている状態で **Select/Scroll エンコーダーノブ**を使用すれば、**アルペジエーター**や**ノートリピート**での **Time Division** 設定を調節することができます。

コードモード

コードモードを有効にすると、キーやパッドを 1 つ押すだけでコードが演奏されます。押すキーやパッドによってコードのルートノート（根音）が決まり、演奏されるコードの種類は設定によって変わります。

コード機能は下記の 2 つのモードのどちらかで使用できます。どちらのモードの操作でも各キーに割り当てられた正確なコードを発声できます。

- **Smart Mode（スマートモード）：** このモードでは、最初にキーボードを音楽キーに割り当てます（例：D マイナーなど）。次に、コードに含まれる音程（ボイシング）を割り当てます（例：**1～3～5** など）。各キーを押した際の和音の発声は、選択したキーと自動的に調和します。
- **Custom（カスタム）:**このモードでは、手動でキーを押さえて弾いた和音がコードとして設定されます。たとえば、このモードを選択中に **1～b3～5～b7** を押さえたコードを演奏すると、ルートノート（根音）として設定され、すべてのキーがこの和音を別音階で演奏するように割り当てられます。

コードモードの ON/OFF は、CHORD ボタンを押します。コードモードが ON になっている際は **CHORD ボタン**が点灯します。

コードモードの設定を編集するには、**SHIFT ボタン**を長押ししながら **CHORD ボタン**を押し、**ディスプレイ**でコード編集メニューを開きます。**Scroll/Select エンコーダーノブ**回して設定を変更します（詳しくは、***ディスプレイの概要***をご参照ください）。

編集が終了したら、**BACK ボタン**を押してコード編集メニューを終了します。

Smart Mode（スマートモード）使用中であれば、**SHIFT ボタン**を長押ししながらキーボードで和音を弾き、コードを設定することもできます。

スケールモード

スケールモードでは、指定したノート以外のキーは、触っても鳴らない設定にすることができます。この機能を使用すれば、うっかり間違えたノートを弾くことを防げます。スケールの割り当てには 16 のオプションがあります。

スケールモードの ON/OFF は、SCALE ボタンを押します。スケールモードが ON になっている際は **SCALE ボタン**が点灯します。

スケールモードの設定を編集するには、**SHIFT ボタン**を長押ししながら **SCALE ボタン**を押し、**ディスプレイ**でスケール編集メニューを開きます。**Scroll/Select エンコーダーノブ**回して設定を変更します（詳しくは、***ディスプレイの概要***をご参照ください）。

編集が終了したら、**BACK ボタン**を押してスケール編集メニューを終了します。

グローバルメニュー（Global Settings Menu）

ディスプレイのグローバルメニューでは、キーボードのデフォルトコントロールの一部をカスタマイズできます。このメニューでの設定は、DAW とプリセットモードの両方のキーボードに適用され、キーボードの電源を OFF にした後も継続されます。

グローバルメニューを開くには、**SHIFT ボタン**を長押ししながら **MODE ボタン**を押し、**Scroll/Select エンコーダーノブ**回して設定を変更します（詳しくは、***ディスプレイの概要***をご参照ください）。

設定の編集が完了したら、**BACK ボタン**を押して**グローバル設定メニュー**を終了します。

付録

プリセットリスト

1. MPC PI (MPC Plugin)	9. Preset
2. Hybrid (Hybrid 3)	10. Preset
3. MiniGrd (MiniGrand)	11. Preset
4. Velvet	12. Preset
5. Xpand (Xpand!2)	13. Preset
6. Vacuum	14. Preset
7. Boom	15. Preset
8. DB33	16. Preset

DAW リスト

1. Pro Tools	7. Logic
2. MPC (MPC Beats)	8. Bitwig
3. Ableton (Ableton Live)	9. Garage (Garage Band)
4. Studio One	10. Reaper
5. Reason	11. FL St. (FL Studio)
6. Cubase	12. User DAW

技術仕様

電源	USB バスパワー
サイズ (W x D x H)	965.2 x 264.2 x 83.8 mm
重量	約 4.8 kg

仕様は予告なく変更になる場合がございます。

商標およびライセンス

M-Audio は、inMusic Brands, Inc.,の商標で、米国およびその他の国々で登録されています。

AAX、Avid、および Pro Tools は、アメリカ合衆国あるいはその他の国における Avid Technology, Inc の登録商標または商標です。

Ableton は Ableton AG の商標です。

Apple Store、iPad、および macOS は、Apple Inc.,の商標で、米国およびその他の国において Apple Inc.,の登録商標です。

Windows は Microsoft Corporation の登録商標で、 米国およびその他の国々で登録されています。

Kensington は、ACCO Brands の登録商標です。

その他すべての製品名または会社名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

m-audio.com

Manual Version 1.3